横浜市立東市ヶ尾小学校だより

令和6年1月10日

まなびや 東市ヶ尾

1月号

レジリエンス

校長　　霜田　恵子

新年を迎えました。令和6年は年初から大きな地震や航空機事故が起こり、心を痛めておられる方も大勢いらっしゃることと思います。被災された方々には、心よりお見舞いを申し上げます。

このような災害や事故があるたびに、私は当たり前の生活を送れることに感謝しなければ…と、思います。暖かい部屋で温かい食事がとれること、電気・ガスや水道のライフラインが滞りなく供給され、ストレスなく移動が可能なこと、これらは、当たり前のことではなく、人々の努力の上に成り立つ有り難いことなのだと忘れてはいけないと思いました。

そして、「人の強さ」を感じます。今回の地震に関する報道でも、道路が寸断し孤立してしまった集落で物資が届かない中、自宅の食料を持ち寄って炊き出しを行っている方々や、ボランティアによる炊き出しの温かいものを口にして「久々で有り難い」と笑顔を見せる被災された方々の映像を見ました。その我慢強さやたくましさに驚きました。中には、家族を亡くされたのにもかかわらず、避難所で炊き出しを行う方もいらっしゃったとのこと。自分はそれほどまでに強く居られるだろうか、自分のことだけでなく周囲のことを思いやる気持ちを保てるだろうかと思いました。また、航空機事故では、パニックになりながらも秩序を守り、整然と避難する姿が報道されておりました。冷静に指示を出すCAとそれに従う乗客たちが「奇跡の脱出」と海外メディアに称賛されたことは皆様もご存知のことかと思います。

報道されていることはごく一部の事実でしかなく、計り知れないご苦労や想像を絶する恐怖を抱いた方々が多くいらっしゃると思いますので、軽はずみなことは申し上げられないのですが、過酷な状況の中でも生き抜こうとする皆様の姿から、私は「レジリエンス」という言葉を思い起こしました。強靭さ、適応する力、対応する力、復活する力、人とつながる力…などのことです。このような力は、変化の激しい世の中を生き抜いていく子どもたちにとっても私たち大人にとっても、とても大事な力だと考えます。学校教育の中でも、意識して培っていかなければと思っています。苦しいことや辛いことは、多かれ少なかれ私たちの身にふりかかります。その逆境を乗り越えていく力を子どもたちに身につけてほしいと願いながら、今年も本校の教育活動を展開したいという思いをもちました。

また、「苦しい時にも相手を思いやり、感謝の心を忘れない。」「自分だけではなく、集団のことを考える。」という姿から、日本人が古くから大切にしてきた美徳・美しい心を見ることができ、このような考え方も大事に育んでいきたい、つなげていきたいと思っております。

つらいことばかりは続かないと信じて、前を向いて一歩ずつ歩んでまいりましょう。

今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

→2年3組　児童作